

魅力ある県立学校づくり大賞

優秀賞

地域に貢献し、地域に愛される学校を目指して

千葉県立八街高等学校

本校はJR総武本線榎戸駅の南方1.5キロに位置し、近くには落花生畑があるなど、自然環境豊かな場所にあります。本校には県内最初の総合学科が平成9年度に設置されました。総合学科のスタート時は1学年6学級でしたが、平成14年度から情報処理科、国際経済科が募集停止となり総合学科のみの1学年7学級となりました。現在は4学級編成で、約440人の生徒は明るく素直です。1年次は基礎学力の定着を目標とし、2年次からは人文・自然・生活・商業・情報といった5つの系列に分かれ、専門的な学習に励みます。1年次の「産業社会と人間」は、「大学・企業体験学習」を行い将来の進路に向けて、実際に大学・企業の様子を目にすることで自分事として進路を考えます。また、一生の思い出となる2年次の修学旅行は沖縄に行くことができました。さらに、3年次は「総合的な探究の時間」で各自が設定した課題について調べたものを、全校生徒の前で発表する「全校発表会」を実施するなど多彩な学習活動も行っています。

本校が今回「魅力ある県立学校づくり大賞」へ応募した内容は、地元八街の地域に貢献するため、SDGsの活動やボランティア活動に取り組んだものです。



SDGsの活動は、令和3年6月に八街市で児童5人が死傷した悲惨な交通事故が契機です。本校の生徒も通っている通学路で、飲酒運転のトラックが下校中の小学生の列に突っ込み死傷者が出たことで、多くの生徒が心を痛めました。そこで、八街高校工芸科目を履修している生徒が「高校生として何かできないか」と考え、1年次から3年次の工芸の授業選択者111名が、自分たちが制作した工芸作品の展示販売を行い、収益金を八街市の道路交通安全のために全額寄付しました。



また、八街市の選挙管理委員会や八街市体育協会からの依頼を受け、参議院議員通常選挙に係る選挙事務のボランティアに16名の生徒、及び「八街落花生マラソン」の運営ボランティアには8名の生徒が参加しました。

これらの取組は、千葉日報及び朝日新聞に掲載されるなど、大きな反響を呼びました。この取組に参加した生徒からは、「とても自信がついた」、「この取組をやって本当によかった」、「こんなに多くの人があたたかい言葉をかけてくれて本当にうれしかった」など、感動の声が多く上がっています。

保護者や地域の方々からは「昔に比べて、八街高校の生徒は、良くなった」「積極的に活動してくれるので、とても感謝している。」などといった声が聞かれました。

今後はこの地域貢献活動を、ボランティア部が中心となり、生徒会の協力を得ながら継続していけるよう、この取組を発展させていきたいと思えます。

本校は、これらも積極的に地域貢献に取り組んでまいります。御期待ください。